道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

武井美代子さん（右）は、上達のため50代後半でリフト係勤務したバイク＆スノボフリーク♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

冬季オリンピック真っ只中。どの種目も釘付ですが、やっぱり夢中になって見てしまうのは、スノーボード競技。レベルは天と地ほどの差がありますが、骨折が完治した私も、今季は早々とスノーボードを開始しました。生活に支障がでた方々にはたいへん申し訳ないのですが、雪が降ってくれないと困るスキー場や宿の方にとって今年の大雪は、天からの恵みとなりました。でも、すぐにオミクロン株の広がりで、長野県は2月20日まで「まん延防止等重点措置」ということで、半額になる信州割リフト券は県内限定となり、年末年始の賑わいは何処へ。平日は「この山は私だけのもの」というくらい、静かに淡々と営業されています。2シーズン目の私は初心者なので、空いているゲレンデは一番安心で安全なところ。そして、どのスキー場もさらっさらのパウダースノー！ここでやらなきゃ何時やるの？という訳で、週一回死守で通っています。

今年はベテランの夫や仲間たちが強化コーチとなり、毎回アドバイスされたポイントをテーマにチャレンジしていますが、見事に出来ないことだらけ。一つ出来たら、三つ出来ない、みたいな。同じ日でもコンディションがどんどん変わっていくスキー場。気温や風や標高で変化するのは、登山で知っているものの、スキー歴がほとんどない私にとっては驚きの連続。新雪で出来たターンが硬く圧雪されると出来なかったり、目線と言われても何故か猿人から進化しなかったりで、一言でいうと「どんくさ～」。お尻の亀プロテクターも離せないので、まさにドンくさい亀状態。初日でスイスイ滑っている小学生とか、歩けないのに滑れちゃう生後10ヶ月の赤ちゃんとかでも分かるように、バランスものは幼少が黄金期。年齢は気にせず、とにかく続けるしかありません。楽しいし♪

そのスケートボードの最大の特徴は、横乗りということ。基本姿勢はあるものの、左右のターンで下半身の体型が異なるので、それを徹底的に覚えねばなりません。カフェの片隅に夫が作ってくれたのは、鏡を見ながらフォーム確認が出来る「緩斜面克服装置」。最初はバランスボールにパリダカで使った四輪用脱出ラダーをつけたものでしたが、スケートボードを経て現在は6輪のフリーボードというものを半固定。お陰で少し形になってきましたが、20年のベテランが乗ると、瞬間芸のようにピタッとポーズが決まり、手や体を動かせば、背景にスキー場の景色が見えてくるほど美しくて感動します。昔から運動が大好きで、特にバランス感覚は1番の得意分野だった私。バイク以外の大方のスポーツで「バランス凄いね！」とおだてられて64年。なのに、この有様は何なのでしょう。競技に出たい訳ではなく、ただ気持ちよく雪面をお散歩したいだけなのですが。私にとってスノボは、老化防止に最適なビックウォールと言えそうです。

とまれ、そんな感じで昨年から燃えていたら、スノボに限らず、スキーやスノースケートと多種多様な仲間が、どんどん増えてきました。全てがバイクライダーかつカフェのお客さんですが、「一緒に行く人がいなくなったので、遠ざかってしまった」というリターンばかり。再びドキドキで新品や中古グッズを揃え、何処行く？何時行く？と、子供の遠足のよう。「私をスキーに連れてって」世代も多く、青春を今一度という感じもあり。みな体力も勘もすぐに取り戻してしまうのが凄いのですが、以前より体のパーツは弱っているので、早くもアキレス腱損傷や指の剥離骨折と負傷者も発生。でも悲壮感はなく、「定年前だしやることやろう」といった感じで、人生を謳歌。ギプス付きで見学に来たりと、まるで青少年の合宿みたい。コロナ禍なので、密にならず黙食でランチ、集合写真はヘルメットにゴーグルにマスクで誰だかさっぱり。でも、ヘタで転んでばかりでも、愉快なみんなと一緒は本当に楽しい時間です（ずっと笑いっぱなし）。さあ、明日からもまた、小さな目標に向かって特訓だーっ♪

キレッキレのカービングで降りてきたレジェンド相澤盛夫プロ。今季末にはまたコーチ受けたいな。

白馬山麓「鹿島槍スキー場」のリフト降り場にある積雪３ｍが納得の壁！

お腹ペコペコ、それ行けランチタイム。ソーシャルディタンス取れてます。

今季初滑りは、東御市の「湯の丸スキー場」。もう一人いればオリンピック♪

平均年齢55歳。スノボ・スキー・スノースクート・スキーバイクなどが勢揃い。

九州の散歩道

自宅近くに「ガンダム」出現！

フリージャーナリスト　湯浅玲子

いつもは九州各地のおすすめ散歩道などを紹介していますが、今回は少し趣向が異なります。実は、わが家のすぐ近くに九州初進出のショッピングパーク「ららぽーと福岡」ができたのです。開業は4月からですが、1年ほど前から着々と工事が進み、外観はほとんど完成。今は外周や内装の工事を進めています。

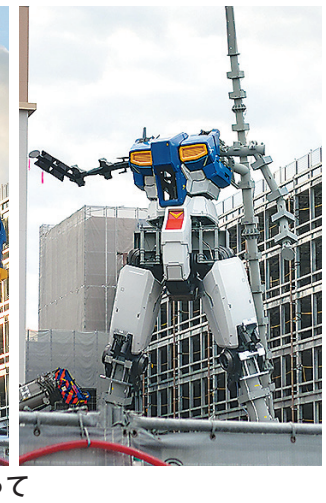
中でも注目を集めているのが、中央広場に立つ実物大のガンダム像。街中に突如現れた巨大なガンダムの立像は、遠くからでも異彩を放っています。実物大のガンダム立像が初めて登場したのは2009年の東京・お台場。かなり話題になり、私もお台場までわざわざ見に行ったことを覚えています。現在は横浜の動くガンダムなど、国内外に数体のガンダム像があり、西日本で初めて設置されたのがこの福岡です。

1979年にスタートし、現在まで続くテレビアニメシリーズの「ガンダム」。その人気は日本だけでなく海外にも多くのファンがいます。また、作中に出てきたモビルスーツ（ロボット）をそのままプラモデルにした通称「ガンプラ」も人気があります。私の息子も小さい頃からガンダムの大ファンで、部屋にはガンプラが山積みされています。自宅近くにガンダム像ができると知って、完成前から毎週通って製作工程を激写していました。

ただ、少し気になることが。同じようにガンダム像の写真を撮ろうと、最近は多くの人が集まるようになっています。立像があるのは、かなりの交通量がある幹線道路に面した場所。歩道で撮影する人はまだしも、中にはバイクや自転車を急に止めて車道で写真を撮り始める人もいます。写真を撮らないまでも、いきなり視界に現われた巨大ガンダムに気を取られているドライバーもちらほら…。事故にならないかと冷や冷やします。

もうひとつ気になっているのがショッピングパーク開業後の交通渋滞。このあたりはもともと住宅地で、大量の車や人に対応できるような道路整備はなされていません。そこに突然、大きな商業施設ができるのですから、周辺の交通渋滞が予想されます。歩道を拡張したり、反対車線からは侵入できないようにするなど対策はとられるようですが、地元に住む人間としてはいろいろ気になるところです。

これまで観光地や商業施設を訪れたことはあっても、地元に住む人々の気持ちや周辺道路の環境を深く考えたことはありませんでした。今回改めてその気持ちを体験することになりました。


ガンダム像の製造過程を追って

したが、地元住民としては新しい施設を楽しみにする一方で、生活環境が悪くならないことを願うばかりです。

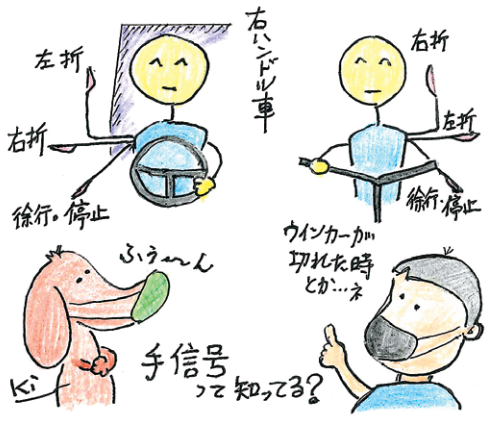
ハッと思いました

忘れないうちに、今年の正月に久々に目にした縁起物を報告します。遠い過去の遺物だと思っていた、フロントグリルに「しめ飾り」を付けたクルマを見ました。

さすがに手のひらサイズのお飾り（チョッと恥ずかし気に）でしたが、可笑しいやら、嬉しいやら。交通安全を願って、事故の原因者にならない事と理不尽な事故に遭わない事、コロナ終息への思いもあるのかな。

コロナ禍になって二年以上経過しました。アマビエのご利益はあったのか？

世界中で賛否がある「マスク着用論争」ですが、マスクの効果は確実に大きいと信じています。マスク自体の効果と着用する行為による生活スタイルの変化が影響していると感じています。鼻だしマスク人もいますが、もうマスクは外せないパンツの様なものだと言う人もいるようですね。



ここ数年、クルマのポジションが様々に変化しています。ハイブリッド車・EV車への移行、自動運転や安全運転支援システムの普及、電動キックボードの様な新しい手段の参入。単品で見れば何とか受け入れは出来ますが、これらが全て同じ路上に混在している事には恐怖すら感じます。道路交通としてみた時、これまでの内燃機エンジンのクルマが多数実用している中、更には、旧態依然の免許制度のままで、新技術が盛り込まれたクルマの特性などは「カタログ参照」の様な状態で、混在しているのは、ドライバーとして乗り出すには、やはり怖いですね。

ハードが進化した今ですが、70年代後半に免許を取得し、スカスカのボンネットスペースに小さなエンジンが鎮座しているMT車からスタートした私の様な古い認識のドライバーも沢山いると言う事です。

40年以上前に自動車学校で教わった内容のいくつかは、今では何の事？と首を傾げる人も多いのではないかな。